

人生の試験

2024. 11. 13

人生は一度きりである。その一度かぎり与えられた、かけがえのない人生を誰もが素晴らしい人生にしたいと願っている。生きていれば、様々な苦勞や困難、失敗や敗北、挫折や喪失、病気や事故などが我が身に襲いかかってくる。そうした逆境が与えられる人生において、その逆境を乗り越え、道を拓き、人生を切り拓きたいと願っている。

そうであるならば、いかなる逆境であろうとも、それを越え人生を拓くための“こころの技法”のようなものが必要となる。まずは、目の前の逆境に正対することだろうか。過去への後悔と未来への不安に時間を費やすことを止める。過去はない、未来もない、有るのは永遠に続く今だけだということを本気で思い定める。そうやって、目の前の逆境に正対するならば、その瞬間から目の前の風景が、人生の風景が全く変わるように思う。

そして、その上で、考えることができるようにしたいことがある。それが、次のことである。自分の人生は、大いなる何かに導かれている、人生で起こることのすべてに深い意味がある、人生における問題のすべては、自分に原因がある、大いなる何かが自分を育てようとしている、逆境を越える叡智は、すべてに与えられる。

これらのことに思いを巡らすことができれば、心の奥深くから不思議な力と叡智が湧き上がってくる。直観と予感が鋭くなり、人生を導く運氣のようなものを引き寄せることができるようになる。

歳を重ねるにしたがって、時折、人生において、試験問題を出されているように感じることもある。それが、仕事における失敗や敗北、生活における苦勞や困難、人生における挫折や喪失など、人生の中で直面する様々な問題である。

これらの出来事によって、人生は、自分に何を教えようとしているのか。若い頃は、考えることもしなかった。しかし、心の成長とともに、その答えにたどり着くようになる。この失敗は、自分の、この未熟さを教えてくれている。この苦勞は、自分の心の、この弱さを教えてくれている。この挫折は、自分の生き方の、この過ちを教えてくれている。

これらのことに気がつき、深い反省のときを経て、心を新たに歩み出すとき、人生における一つの試験に対する合格証書のようなものを手にしているのかもしれない。この合格証書が、もしかしたら人生の分かれ道になるのだろうか。できることなら、合格証書を手に、道を拓き、人生を拓き、悔いのない人生を送りたいものである。